

第4回「日本版 EHR 事業推進委員会」議事要旨

1. 日時：平成24年5月8日（火）13:30~15:00
2. 場所：総務省 8階 第1特別会議室
3. 出席者（敬称略）：
 - (1) 構成員
小倉 真治（主査）、梶川 融、篠田 英範、神成 淳司、田中 博、富永 悌二、山本 隆一
 - (2) 各事業フィールド担当者（(株)STNet、日本電気(株)、(社)出雲医師会）
 - (3) 総務省
森田総務大臣政務官、佐藤政策統括官、阪本大臣官房審議官、黒瀬情報流通振興課長、吉田情報流通高度化推進室室長
4. 議事要旨：
 - (1) 議事
 - ・事務局より、第3回委員会における議事要旨について説明。
 - ・各事業フィールド担当者から報告書の概要について報告。
 - ・山本構成員より、広域共同利用型の医療・健康情報活用基盤の標準的技術仕様について説明。
 - ・事務局より、共通アンケートの取りまとめについて説明。
 - (2) 質疑応答
主なやりとりは以下のとおり。
 - ・ フィールド2については、医療従事者だけでなく、患者が自らの情報を見ることができ、生涯にわたっての患者の情報が蓄積されていることが重要と考えるが、その点についてはどうか。
 - ・（事業フィールド2担当者）今回の実証については、高齢化が進む中で、医療と介護における課題に対処する必要がまずあり、ICTを活用した情報連携の仕組みがない中での、いわば過渡期的な取組を行ってきたものである。あるべき姿については今後模索していきたい。
 - ・ フィールド3について、マイページポータルはPHRであるが、これは患者が自分の診療結果をそのまま見ることができるポータルであるか、それとも、一般的な情報にとどまるのか。
 - ・（事業フィールド3担当者）ID・パスワードに加えて、カードの認証をした上で、診療情報をそのまま閲覧できるようになっている。
 - ・ フィールド2について、どのような情報がどのくらいの時間をかけて閲覧されているかわかるか。また、重要な情報はどのように同定されるか。
 - ・（事業フィールド2担当者）ログが参照できるので、ログの分析をすれば可能である。重要な情報については、医師の先生の目的と最終地点のログを見れば分かるものである。
 - ・ フィールド2、3について、救急での活用を視野に入れていると思うが、迅速な搬送と最適な搬送は別であるから、それを考えてシステムを考えていただきたい。

- システムというものは、統合性が高くなると、費用負担面での効果が上がるものであるが、費用負担の面で実運用が可能となる規模というのはどのくらいか。
- (山本構成員)費用の見積りについては非常に難しく、ベーシックな社会基盤がない中で、医療情報連携のためだけのシステムを作ると費用がかかる。技術的課題の克服と同時に制度的課題を克服することで、社会基盤に関する基礎的な費用負担については考えることができ、医療情報連携に関する費用負担については、その先の受益者負担で考えられるのではないか。

(3) 次回会合について

次回会合については、平成24年度の実証が進み出す秋頃に開催することとした。

以 上